

# もとの生活に戻せる組み方になっていませんか？

## 「小さな火事(ぼや)」の大きな代償

建物火災の  
約6割は「ぼや」



道路が狭くて、  
消防車の到着が  
遅れた

小さい火だから、  
自分ですぐ消せる  
と思ったんだ

令和7年度版『福島市消防年報』によると、福島市における建物火災の罹災棟数は合計42件。内訳は、全焼4件、半焼2件、部分焼11件、ぼや25件となっています。全体の約6割が「ぼや」で収まっており、数字だけを見ると「大きな火災は少ない」「深刻ではない」そう感じる方もいるかもしれません。しかし、原因は、モバイルバッテリーや、洗濯物がストーブに落ちたなど、普通にやっていることが原因で発生しています。



「小さく建て直すから」「ウチはもうは古いから」「保険料節約のために補償額は低くても良い」とおっしゃる方もいますが、火災保険は、大切な資産、そして、ご家族の人生を守るものです。安易な考えで契約せず、しっかり向き合ってください。



## 火が消えたあと、困るのは「家」だけではありません。



2021年2月に損保ジャパンが行った独自アンケートでは、住宅に7割以上の損害が発生した場合、約78.7%の方が「建替えたい」と回答しています。損保ジャパン火災保険パンフレットより/2025.2.8)

しかし、建替えには設計・解体・着工・完成まで、数か月から1年以上かかるケースも少なくありません。その間、『どこに住むのか』『家賃はいくらかかるのか』『家族は一緒に暮らせるのか』といった仮住まいの問題が、現実として立ちはだかります。

火事で家を失っても、住宅ローンの返済は続きます。ローンが残っている場合、新たなローンが組めません。

ローンの返済を続けるためには、新しい家を建築することを求められます。仮に、火災保険で残りを返済し建てなおすとしても、今度は、**同じ条件（金利・返済期間・融資額）でローンを組むことは難しくなります。**

再建築にかかる費用も、以前より大きく上昇しています。

人件費や材料費の高騰により、最近では**木造住宅でも、1坪あたり100万円前後が一般的**です。さらに、法改正や建築基準の変更により、火事に遭った建物と『**同じ場所**』に、『**同じ規模の建物**』を建てられるとは限りません。再建築は、「元どおりに建て直す」ことではなく、**「現在」に合わせて見直しを迫られます。**

火災保険は  
建物を直すため  
だけのものではない  
暮らしを立て直す  
ための備えである

「とりあえず」ではなく、時代にあった**必要な補償内容・保険金額**で整えておく。

火事は、いつ起きるかわからない。  
でも、**備えは、いま見直すことができる。**

家と暮らしを、**現実**に“守れる形”に。

ハセプロにご相談ください。